

## CBR1発現トランスジェニックマウス 発癌抑制、ダウン症等の作用機序解明に有用

### 概要

NADPH 依存性の還元酵素であるCarbonyl reductase1 (CBR1) は、発癌抑制、心毒性、ダウン症等の様々な細胞プロセスに関与する事が知られている。本発明者らは、発癌抑制、抗癌剤の心毒性、ダウン症等との関連性についてのCBR1の詳細な作用機序の解明をするべく、全身でCBR1を過剰発現するトランスジェニックマウスを開発した。

トランスジェニックマウスは、心臓でmCbr1が過剰発現している個体（以下、Tg7）と心臓に加え、脳、肺、脾臓、腎臓、子宮、卵巣でもmCbr1が過剰発現している個体（以下、Tg15）の2種類が作製された。

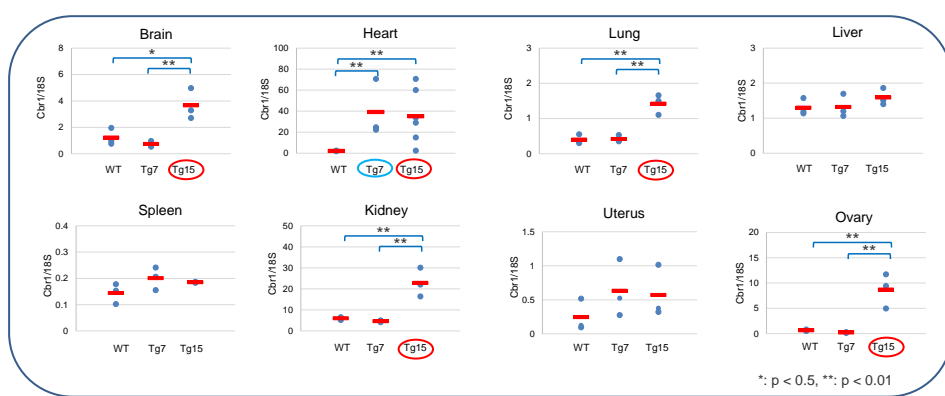
Tg7およびTg15は、CBR1が制御する分子機構を解析するために有用であるため、CBR1が関連する疾患の薬剤スクリーニングに利用できるのではないかと考えている。

### 応用例

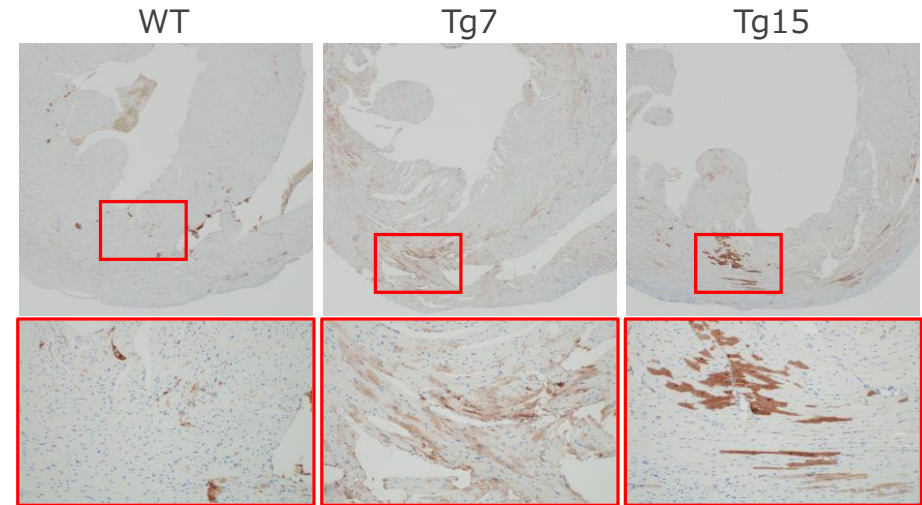
- トランスジェニックモデル動物

### 知的財産データ

知財関連番号 : 特開2023-108323  
 発明者 : 横山 良仁、横山 美奈子  
 整理番号 : K23-029



### 心臓での蛋白発現（抗CBR1抗体免疫染色）



### 関連文献

[1] Molecular Biology Reports (2023) 50:531–540

### お問い合わせ

本資料をダウンロード



お問い合わせ

<https://www.t-technoarch.co.jp/contact.html>



発明案件を随時更新中

<https://www.t-technoarch.co.jp/anken.php>



LinkedIn ページをフォロー

<https://www.linkedin.com/company/tohoku-techno-arch>



# Leading you to Successful Industrialization



株式会社

東北テクノアーチ

TOHOKU TECHNO ARCH